

看護師職能委員会 I・II

はじめに

徳島県看護協会看護師職能委員会は、「病院領域」(領域I)と「介護・福祉関係施設・在宅等領域」(領域II)の2領域の活動を行っています。日本看護協会の活動方針や重点事業などを会員に周知し現場の意見を集約する意見集約機能と課題発見機能を有していますので、ぜひ、皆様の貴重なご意見を聞かせ下さい。

看護師が抱える問題を明らかにし、解決のための検討を行いながら、質の高い看護の提供ができるように支援することを目的として活動しています。

医療的ケア児における病院と地域との継続ケアと多職種連携

保健師 助産師 看護師
三職能合同研修

日程 令和7年10月18日(土) 参加者 43名

医療的ケアを必要とする親御さんからの話が、直接聞くことができた大変貴重な機会でした。医療的ケア児が入院してきたとき、看護師に言いづらかった生の声は、心に届き今後のケアにつながるものとなりました。また、多職種で連携し地域での支援が継続できる関わりを持つ必要性も感じました。

領域 I: 病院でのACP導入に向けた取り組みと課題

令和7年度看護師職能
交流会・研修会

日程 令和7年11月30日 参加者 41名

講師 JA徳島厚生連阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋 吉保 先生
徳島県立中央病院 がん看護専門看護師 川端 泰枝 先生



領域II: 在宅におけるACP

日程 令和8年2月1日 参加者 33名

講師 木下ファミリークリニック 院長 木下 英孝 先生
TAOKAメディカル・ウェルフェアシステム訪問看護統括所長 長谷 康子 先生

今年度、看護師職能委員会領域I・IIともにACPをテーマに、研修会を企画しました。病院においてACPの必要性は理解していても、なかなか取り組めていない状況があり、また、令和6年診療報酬改定で入院基本料算定の施設基準に患者の意思決定支援を行うことが提示され、より関心が大きくなったことでテーマとしました。そして病院から在宅・地域へ、地域から病院へ連携ができれば、よりその人の人生観・価値観に沿った医療やケアを受けられるのではないのでしょうか。

偶然にも領域Iは、11月30日(いい看取り)の「人生会議の日」に研修会開催となりました。今回はACPにおいて著名な先生方からの講演であり学ぶことが多かったです。実際にロールプレイを行い、楽しく学ぶこともでき、わかりやすかったと好評でした。多くの方が、過少でも過剰でもない適切な医療やケアが受けられるといいなと感じました。

【令和7年度 看護師職能委員会委員】

- 【委員長】谷崎 宏美(徳島市民病院)
 【副委員長】藤原都志子(徳島県看護協会)
 【委員】大西 由香(藍里病院) 切佐古幸代(徳島県立三好病院) 辻 敬子(きたじま田岡病院)
 岩本 真理(徳島赤十字病院) 常陸多佳子(国立病院機構 とくしま医療センター西病院)
 細川千恵美(たまき青空病院) 横関恵美子(四国大学看護学部) 和田 光代(徳島県海部病院)
 【担当理事】鈴記 洋子(徳島県看護協会 第一副会長)



2025年度 職能委員会だより

徳島県徳島市北田宮1丁目329-1 ☎ 088-631-5544

保健師・助産師・看護師 三職能合同研修会

医療的ケア児における病院と 地域との継続ケアと多職種連携

～医療的ケア児と家族の社会生活とウェルビーイングを支えるために～

日程 令和7年10月18日(土)9:00～12:00 参加者 43名

講師 専門的立場から
徳島県医療的ケア児等支援センター コーディネーター 渡部 尚美 氏
障がい者生活支援センター 雲 管理者・主任相談支援専門員 楠 綾 氏
医療的ケアを必要とするこどもの親御さん



今回は、専門的立場から2名の講師、こどもと家族の立場から2名の医療的ケアを必要とするこどもの親御さんの講演があり、両方の視点からの話を聞く機会となりました。具体的には、専門的立場から在宅移行支援の事例報告を通して在宅移行における課題や多職種連携や行政との連携の必要性を御教示いただきました。親御さんからは、「お子さんへの愛にあふれる思いとともに、医療職へ「医療職はすばらしい、誇りを持って働いて!」「本人・家族の声を聞いて下さい」等のメッセージをいただきました。

グループディスカッションでは、多職種の役割を知り情報共有しました。参加者からは、「在宅の実際や介護者の思いを知ることができて良かった」「家族の話が聞けて貴重な機会となった」等の感想をいただきました。

次世代育成支援イベント

おぎゃつと21

日程 令和7年9月23日(火・祝)9:30～16:00

場所 アスティとくしま

《メインテーマ》心とからだ、より豊かに、より健やかに
《サブテーマ》「食べる」



今年度も徳島県看護協会職能委員会は、おぎゃつと21に参加しました。総勢約6,000人の家族が来場し笑顔と熱気にあふれる中、すこやかファミリーコーナーの4ブースと救護を担当しました。

- ♥乳幼児身体測定: 参加者420人
乳幼児の身体計測を行い、子どもたちの成長を喜ぶ両親や祖父母と幸せな時間を共有しました。
- ♥骨健康測定・血管年齢測定・脳年齢測定: 参加者254人
普段測定できない測定であり、希望者も多く関心の高さを感じるとともに、楽しみながら生活習慣を振り返るきっかけとなりました。
- ♥いのちの授業: 参加者356人
“いのち”の始まりから妊娠・胎児の成長、出産についての体験授業です。“いのち”のみちをくぐって生まれてくる赤ちゃんの誕生を喜ぶ体験ができました。
- ♥看護師さんに変身: 参加者162人
好きなナース服に着替え、スタンプやシールを貼った手作りナースキャップをつけて記念撮影。見つめるパパやママの笑顔も印象的でした。

保健師職能委員会

はじめに

未来を拓く保健師活動のために共に進めよう

保健師職能委員会は、『全世代型地域包括ケアにおける看護機能の強化に向け、保健師の専門性の向上とキャリア形成の推進』を目標とし、保健師の専門性向上のための研修会並びに保健師間の連携強化のための職能集会などを実施しています。2040年を見据え、時代の要請に応じ、今後の保健師活動はどうあるべきかを考え、未来を拓いていく時期にあります。会員を拡大し仲間と共に、保健師が地域でいきいきと活動できることを目指し、保健師職能委員会活動を続けています。

保健師職能集会

保健師職能集会

日程 令和7年9月3日(水)12:45~13:00 **参加者** 保健師58名(うち新任期保健師46名)

県及び市町村の新任期(1年目~3年目)保健師を主な対象として開催しました。看護協会のミッションの3つのミッション「看護の質の向上」「看護職が働き続けられる環境づくり」「看護領域の開発・展開」を伝えるとともに、保健師職能委員から看護協会との関わり体験談、職能委員会活動報告等の情報発信をしました。新任期のアンケートでは、「2040年問題など未来のことが少し身近に感じた。」「看護協会の必要性を知ることができた。」等のコメントをいただきました。引き続き、新任期保健師の声を聞き、未来を拓くため共に考える機会を創っていきます。



医療的ケア児における病院と地域との継続ケアと多職種連携

保健師 助産師 看護師
三職能合同研修

日程 令和7年10月18日(土)9:00~12:00 **参加者** 43名(うち保健師9名)

医療的ケア児の在宅支援について、関わる機会がある保健師にとって、専門的立場からの在宅移行支援の事例報告はとても参考になりました。医療的ケアを必要とするこどもの親御さんの思いや医療職へのメッセージは心に残るものであり、人と場所をつなぎ地域でその人らしい生活ができる支援を本人・家族に寄り添いながら継続ケアを実践していきます。今後とも多職種の皆様と連携させていただきますようよろしくお願いいたします。

自治体保健師の活動内容や魅力発信のイベント

日程 令和7年11月30日(日)13:30~16:00 **参加者** 看護学生7名、自治体4か所

2040年を見据え保健師の確保を推進するため、看護学生等を対象に、保健師の活動や魅力を自らの言葉で伝えるプレゼンテーションと自治体保健師との相談会を開催しました。参加自治体は、徳島県、阿南市、藍住町、牟岐町でした。

参加した看護学生は、熱心に保健師の業務について質問し、相談を受ける保健師も熱く語り、会場は熱い思いと笑顔に包まれました。参加者アンケートでは、参加して就職希望度合いの変化があったのは100%であり、「保健師になりたいと強く思った。」「働くのが楽しそう。」等の感想がありました。次回は、さらに多くの自治体のご参加をお待ちしております。



保健師スキルアップ研修会及び災害時保健活動研修会

保健師スキルアップ研修会

日程 令和7年12月5日(金)13:30~15:30 **受講者** 29名

講演「DMAT活動から見た保健師活動」

講師 国立健康危機管理機構 DMAT事務局 佐々木佳恵 先生

行政説明 徳島県災害時保健衛生マニュアルの改訂について

説明者 徳島県健康寿命推進課 周産期・歯科口腔担当 係長 手塚 侑子 氏

DMAT活動の基本から能登半島地震における支援の実態等についてお話をいただきました。被災後の受援時には、①保健師業務を伝える。そのためには、平時から「知る・見る・聞く・伝える力」を鍛え続けること。②支援者へ、地域がどうあればいいのか、どのようにすれば地域がベターなのか等地域の特徴等を伝えることが必要。と助言をいただきました。



《令和7年度 保健師職能委員会委員》

【委員長】浦西 由美(徳島保健所) 【委員】高瀬 彩水(徳島保健所) 加治 明子(阿南保健所)
【副委員長】岡久 玲子(徳島大学) 黒川 久美(美馬保健所) 村橋 丈彦(鳴門市)
【担当理事】鈴記 洋子(徳島県看護協会)

助産師職能委員会

はじめに

全ての母子に助産師のケアを提供し、安心・安全な妊娠・出産・育児環境を提供できる体制づくりとして、母子のための地域包括ケアを推進し、働く環境、子育て環境の両面から、妊産婦とその家族への切れ目のない支援を提供できることを目標に活動しています。

妊産褥婦のフィジカルアセスメント：脳神経(CLoCMiPレベルIII必須研修)

令和7年度 第1回助産師職能委員会研修会

日程 令和7年9月13日(土) **参加者** 26名

講師 徳島大学大学院医歯薬学研究所ウイメンズヘルス支援学分野 教授 加地 剛 先生

タスク・シフト/シェアとして医師とアドバンス助産師の協働、また多様化する妊産婦の現状に対応するため、常に助産に関する知識や技術をブラッシュアップすることが必要となっております。妊産褥婦における①中枢神経疾患に対する理解を深め、フィジカルアセスメントに必要な観察ポイントについて、②中枢神経疾患の逸脱状況の予測と対応、③安全な医療を提供できる知識と技術を理解できる、これら3つを目的とした妊産婦の脳神経系疾患に対応するために必要な知識を得ることができました。



医療的ケア児における病院と地域との継続ケアと多職種連携

保健師 助産師 看護師
三職能合同研修

日程 令和7年10月18日(土) **参加者** 43名

医療的ケア児の在宅移行においては、こどもと家族を支援する多職種が、相互理解を深め連携することが重要であると考えます。そこで①出生から在宅移行、在宅移行後の継続ケアと連携のあるべき姿を見出す、②各職種が今後の役割を認識し実践するための課題共有の機会とするという目的で開催しました。ご家族の率直な気持ち、生活を知る機会となり、サービスを組み込んだ体系的な運用の必要性、地域全体で顔を合わせた話し合いの機会の重要性を見出すことができました。

県内の産後ケアの現状と課題

令和7年度助産師職能交流集会・助産師活用推進事業報告会

～母子のための産後ケアの今後の展望と発展のために～

日程 令和8年1月31日(土) **参加者** 52名

講師

《助産師職能委員会活動報告》委員長 森内 洋美 氏

《助産師活用推進事業出向報告》徳島県立中央病院助産師 佐藤 千尋 氏

《産後ケア事業活動報告》

- ①ショートステイ 徳島大学総合周産期母子医療センター産科・MFICU 看護師長 三木 香織 氏
恵愛レディースクリニック 看護師長 河野 優子 氏
- ②デイケア 徳島県鳴門病院 副看護師長 元木沙耶花 氏
阿南医療センター 副看護師長 浅野 愛弓 氏
- ③アウトリーチ 一般社団法人徳島県助産師会 ハッピーベル助産院 鈴記 洋子 氏

県内の『産後ケア事業』における各施設の報告、参加者とのディスカッションを通し、現状や課題、今後の展望、情報共有の場とし、母子支援として更に発展させていきたいという目的で開催しました。施設の特徴を活かした産後ケア事業の展開、また問題点や課題がある中でどのように発展していけばよいかといった前向きな意見交換もなされました。助産師だけでなく、看護師、保健師、あるいは看護管理者や開業助産師のご参加もあり、それぞれの立場で熱心に意見交換が行われました。産後の母子のニーズをかたちにするために、どのようなケア提供が必要か、また安心安全につながるケア提供は何か、今後も産後ケアがより充実したものになるよう取り組んでいきたいと思っております。



《令和7年度 助産師職能委員会委員》

【委員長】森内 洋美(徳島大学) 【委員】山田 良恵(町立半田病院) 木田久美子(吉野川医療センター)
【副委員長】伊丹 恵美(阿南医療センター) 村井 芳江(徳島市民病院) 榎原 嘉那(徳島赤十字病院)
【担当理事】鈴記 洋子(徳島県看護協会) 元木沙耶花(徳島県鳴門病院) 住谷 志恵(県立中央病院)